

価値創造の変遷

中山製鋼所グループは1919年の創業から100年余り、いくつかのターニングポイントを乗り越えながら鉄鋼事業グループとして日本の産業と経済を支える役目を担い続けてきました。カーボンニュートラル時代に求められる企業となって次の100年も躍動を続けていくため、蓄積した強みを活かした新たな成長戦略を展開しています。

1919

創業から
鉄鋼一貫メーカーへ

中山悦治が兵庫県尼崎市に平炉メーカーとして創業。1939年に高炉が完成したことにより鉄鋼一貫体制を確立。1940年代は買収や合併で事業拡大を推進。



創業者中山悦治(1884 -1951)

2025-2033

新電気炉プロジェクトを
基軸とした
新たな成長ステージへ

- » 国内の電気炉薄厚板で確固たる存在感を確立する
- » 循環型社会の中でユーザーニーズに応じた中山らしさを追求する
- » 新生中山製鋼所のスタートに向けての三段ロケット(第1～3フェーズ)の点火

1946

事業基盤の整備と
企業体質の強化

戦後の混乱の中、電気炉を稼働。1960年代の高度経済成長期は事業基盤の整備、設備の近代化を図る。その後、オイルショックによる赤字から脱却するため、販売強化、輸出比率向上を図り、事業を再び軌道に乗せる。

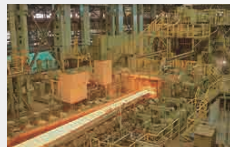


1953年 第2高炉再開火入れ式当日の大船橋の看板

1990

バブル崩壊に続く不況、
業績悪化

1989年に過去最高益を計上、地球環境を守る「クリーン製鉄所の創造」を目標に掲げるが、1990年代に入るとバブルが崩壊し、長い不況に突入。鉄鋼業界の不況、建材市場の低迷、高炉の老朽化等が重なり、収益が悪化。



2000年 熱延工場新設

2001

構造改革による新たな挑戦へ

構造改革に着手する一方で微細粒熱延鋼板(NFG)を開発、世界初の工業生産開始。2002年、高炉工場、焼結工場、転炉工場を休止、電力卸供給事業からも撤退。

2013

新生中山製鋼所の始動

2013年事業再生計画を策定、地域経済活性化支援機構による再生支援決定。グループ5社を完全子会社化し、電気炉メーカーを母体に鋼材製品までの一貫体制で再スタート。2016年同機構による再生支援が完了。

2019

創業100周年を迎える

先人の努力への感謝とともに、今後感謝の気持ちを忘れてはならないという思い、次の100年を次世代につなげる意志を込めたキャッチコピー「100年の感謝を胸に未来へ躍進」と、100周年を契機にグループ全体で、より大きな目標にチャレンジしていく姿を表現するロゴマーク「星(スター)」を公表。



2022

中山三星建材を合併

グループ会社の中山三星建材を合併し、新たに建材事業部としてスタート。加工ビジネスへの取り組みを一段と加速させるとともに、効率的な経営を推進し、グループのシナジー拡大、総合力強化を目指す。

2022

中山製鋼所グループ2030
長期ビジョンを策定

100年先も躍動し続けるグループを目指し、2030年のありたい姿を描いた長期ビジョンを策定。電気炉メーカーである強み、優位性を活かした成長戦略により持続可能な社会の実現に貢献することを目指す。

2025

日本製鉄との
合併会社設立と業務提携

グループの付加価値向上、カーボンニュートラル・循環型社会を実現する取り組み強化のための新電気炉プロジェクトに向け、日本製鉄株式会社と当社による電気炉設備の建設、保有を行う合併会社の設立に合意。船町工場内に電気炉設備を新設し、当社が電気炉設備を賃借して操業する計画を発表。

高度経済成長期

東海道新幹線開業

インフラ整備・産業の発展

第1次オイルショック

バブル崩壊

第2次オイルショック

リーマン・ショック

カーボンニュートラル
循環型社会への対応

米中貿易摩擦

新型コロナウイルス
感染症の拡大

気候変動課題

デジタル技術の革新

大阪・関西万博開催

トランプ関税

建設投資の低迷

人口減少の影響拡大

社会資本・インフラの老朽化の更新

1950

1970

2000

2010

2021

2024

2027

2030